勝高（かちこう）だより

発行
秋田県立雄勝高等学校
雄勝高等学校研修部
PTA

一期一会

校長　佐々木　裕

立春から数えて第十九番目の節気が「立冬」となります。このころになると、秋の収穫作業はほぼ終わり、北国ではそろそろこたつやストーブの使用が始まります。また、タイヤ交換や雪囲いの準備などが気がかりになる時期を迎えます。

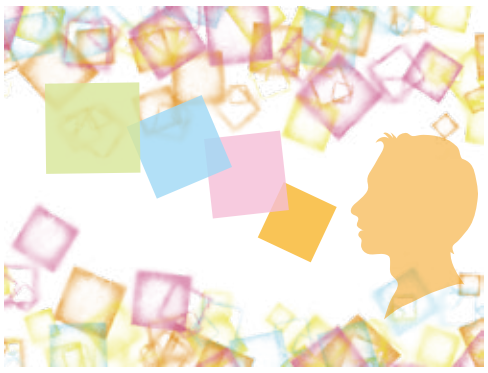
さて、千利休は「茶の交会は、一期一会といひて、たとえば幾たび同じ主客と交会するも、今日の会は再び帰らざることを思えば、実にわれ一世一度の会なり」と茶会の心得を説いています。これは「出会っているこの時間は、二度と巡ってこない、たった一度のもの。この一瞬を大切に思い、今できる最高のことをしよう。」ということでしょう。

雄勝高校での三年間は、「一日一日」の積み重ねです。生活をどれだけ大事にし、充実させることができるかで「生涯にただ一度」の素晴らしい思い出をつくれるのかが決まります。毎日の授業、部活動、学校行事、ボランティア活動、友達との交わり、その一つ一つが大切になってきます。日々平凡に続いているようで、本当は毎日が新しく、かけがえのない一日となっているのです。長いようで短い高校生活を大切にしていきましょう。

また、世の中にはお金で買えないものもあります。例えば「友人」です。困ったときに助けてくれる、悩みを聞いてくれる、嬉しいときは一緒に喜んでくれる。そんな友人です。「感動」もそうです。できないことができるようになったとき、分からないことが分かるようになったとき。みんなで協力し合って運動会や球技大会を盛り上げたとき、みんなで一つになり勝高祭を成功させたとき。こうした感動や経験は決してお金では手に入れることはできません。しかし、それを手に入れることのできる所がここ雄勝高校なのです。

雄勝高校の中にある、数多くの喜び、数多くの感動をぜひ手に入れてください。

一人ひとりが日々の生活を大切にし、様々な活動に取り組むことで、一回りも二回りも大きく成長してほしいものです。そして高い志をもち、社会に貢献できる人になってくれることを期待します。



笑顔で終わった勝高祭

PTA会長　高橋　譲

十月二十五日に「笑顔の華は無限大～届けよう感謝の気持ち～」のタイトルのもと、笑顔の華で咲き誇った勝高祭が行われました。

生徒全員が一つの目標を達成しようと一致団結して、皆さんに楽しんでいただけるよう準備して来たかいもあり、雨、風の吹く悪天候にも関わらず、たくさんの地域住民の皆様にお越しいただき、本当にありがたく思っております。

ステージ発表では、学年発表、地域研修、カラオケ、吹奏楽部の演奏、そして横堀音頭囃子方保存会の方々にも参加していただいた盆踊り等々、どれも本当に素晴らしかったです。そして、出店コーナー、カフェと今年から始まったランチをいただきましたが、あのクオリティーで五百円とはびっくりでした。そして何よりとてもおいしかったです。

外では寒い中、やきとりと焼きそば作りに協力してくれた生徒諸君、そしてPTA保護者の方々には頭が上がりません。

最後になりますが、この勝高祭が大成功に終われたのは、生徒一人ひとりの努力と、届けようとする感謝の気持ち、地域の皆様のご協力とご理解、そして準備から片付けまで快くお手伝ってくださった保護者の皆様、学校関係者の皆様のご協力があってのことだと考えます。皆様、本当にありがとうございました。

一年間の生徒会活動を振り返って

生徒会長　三橋　未来

もうすぐ生徒会での活動も一年が経とうとしています。

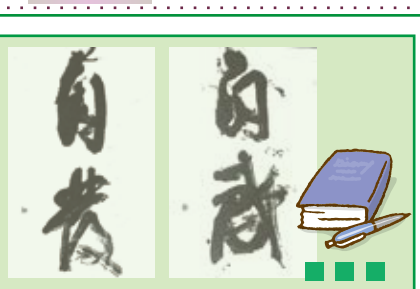
今年度の生徒会役員は、前年度までの役員経験者が一人もおらず、手探り状態でのスタートとなりました。

しかしながら、さまざまな場面で活動がスムーズに行えたのも、生徒会役員が一丸となり、率先して活動してくれたからだと思います。そして何よりも、生徒のみなさんの温かい協力のおかげで全ての行事や活動を「成功」という形で終わらせることができました。生徒会の活動は生徒のみなさんの協力がなくてはならないものだと実感しました。

また、適切な助言や数々のご支援をくださった先生方にも大変に感謝しております。

みなさん本当にありがとうございました。これからも生徒会活動へのご協力をよろしくお願いします。

次年度の生徒会役員のみなさんは、今年度の経験を活かし、より一層活気あふれる学校になるように頑張ってください。



各学年部から

芽吹き

一年部主任　渡邉　潤子

先日、一年生にアンケートを実施しました。その結果について紹介したいと思います。

◎雄勝高校に入学して
ア　良かった　54％
イ　普通　46％
ウ　後悔している　0％

◎それぞれを選んだ理由
・新しい友達がたくさんできて楽しい
・先生方が授業を丁寧に分かりやすく教えてくれるし、先生と生徒の距離が近い
・部活動にやりがいを感じる
・いじめがない……

この結果からほとんどの生徒が今の生活に満足しているということが伺えます。一年生は少人数のため、学校行事や係の仕事などで「一人一役」どころか「一人三役」をこなさなければならない人がたくさんいます。だからどの場面でも「一人ひとりが主役」なのです。「役が人を成長させる」という言葉があります。与えられた役割をこなしていくと、人はどんどん成長していくものだそうです。実際いくつかのコンクールに作品を応募し、入賞を果たしています。

今、芽吹いた若葉たちが、やがて大輪の花を咲かせるために「社会で生きて働く力」をつけさせていきたいと思います。保護者の皆さまや、地域の皆さまに、今後とも温かい目で見守っていただくようお願いいたします。

二年生の取り組みについて

二年部主任　高橋　敏

二学年の二大行事である、就業体験・修学旅行を終え、現在、ようやく進路に向けた実践的な学習がスタートしました。

就職希望者は四月の調査で全体の70％でしたが、生徒全員が就業体験を行いました。依頼した事業所数は二十七社と、一事業所に生徒二名程度で、体験先で友人を当てにせず、本人の自主性が問われました。受け入れ事業所からのアンケート結果では、挨拶が良いが75％、服装が良いが80％、実習態度が良いが65％、人との接し方が良いが45％でした。以上から表面上は良いが、内面が育っていないと考えられます。

修学旅行では、学校祭準備と並行しての、班編制、自主研修の計画立案であり、職員一同、無事に帰ってこられるのかと心配しました。時間に遅れそうになって、焦って迷子になり泣きそうになりながらも、全員揃ってのゴールでした。

以上、生徒はとても誠実です。しかしながら、あと一年で社会に出ると考えると不安です。今後も社会人基礎力の向上に努めていきたいと考えています。

三年生の取り組みについて

三年部主任　藤原　誠

高校生活の集大成として、今年度は生徒一人ひとりの進路希望実現を第一目標に日々の学校生活に取り組ませてきました。これまでの取り組みと成果についてご報告いたします。

初めに就職希望者について。七月に求人票が公開されてすぐに各担任と就職支援員である齊藤さんが生徒・保護者と面談を行いました。生徒本人の希望や適性を考慮して応募先事業所を決定し、できるだけ早く職場見学や履歴書作成、面接練習に取り組んだことで、多くの生徒が第一希望の事業所から内定をいただくことができました。

次に進学希望者について。生徒たちは進路ガイダンスやオープンキャンパスへの参加を通して進学先への理解を深めてきました。試験内容は学科試験や小論文、面接など様々で、それぞれ必要な知識や能力を身につけるために生徒たちは努力してきました。

現在、約八割の生徒の進路が決定しています。これまで指導してくださった先生方や生徒の体調管理に気を配っていただいた保護者の方々には感謝いたします。また、これからチャレンジする生徒たちへも引き続きご指導・ご協力をお願いします。